イギリスの四季*

野村　厚**

1993年4月からヨーロッパ中期予報センター(ECMWF)へ派遣となり，イギリスはロンドン西方のレディング（Reading）に滞在しています．そこで私は，過去15年間にわたる全球の大気の状態の変化を最新の数値モデルを用いたデータ同化（客観解析）で評価し直すという再解析プロジェクトの仕事に携わっていますが，ちょうど現地の一年を一通り経験したので，仕事から離れて天気の紙面を借りて日本とは一味異なるイギリスの四季について，私の目から見た印象を中心に紹介したいと思います．

イギリスは北緯50度以北という北海道よりも高緯度に位置しています．しかし西岸海洋性気候といいますか，雨はよく降りますが一年を通してひじょうに穏和な気候です．夏は暑いことは暑いのですが乾燥していて日陰にはいれば汗はスーと引いてしまいますし，冬，ロンドン周辺では雪は降っても積もることはまれです(北部のスコットランドではかなりの雪が降るようですが)．また高い山がなく日本と比較すればほとんど平らという地形のせいもあってか，同じ島国の日本とは似て非なる四季をもっています．

March wind and April shower bring May flower. と歌われている通り，4月は晴れたら必ずにわか雨が降るという季節です．しかし木々は新緑，桜の花も咲いて5月を待つまでもなく，たいへん美しい季節です．4月のシャワーも5月に入るととたんに少なくなり，雨が一粒も降らない日も珍しくなくなります．森にはカッコウの歌声が響き，Downsと呼ばれるゆるやかな丘には菜の花が畑一面に咲いて，黄色いじゅうたんが独特の香りとともに広がります．

6月は天気の一番安定している季節で，雨も少なく晴れの日が続くようになります．もちろん梅雨などというものはありません．日が長い上に夏時間を採用しているため，10時を過ぎても外はまだ明るいので調子が狂います．夜の11時頃に三日月の細い姿がまだまだ明るさの残る北の空にかかる姿は，印象的というより不気味に見えました．しかし日の長いことは外で活動するには便利で，仕事を5時に終えても暗くなるまで4時間はあります．私はよく仕事が終ってから，近くの丘や森に Rambling（ミニハイキング）に出かけました．

7月になると気温が25度を越える日が続き，盛夏という感じです．野には Nettle（いら草）が繁茂し，わけのわからない虫が発生して Rambling のじゃまになります．ただ蟬の鳴き声がまったく聞こえないのはなんとなく寂しい感じです．麦畑も黄色に変色し，菜の花畑が刈り取られて一面の荒野と化します．

8月に入ると早くも秋風が吹き初め，気温も15度を下回る日が普通となります．気の早い植物の葉はもう色付き始めます．麦畑も刈り取られて裸地となり，とうもろこしもたいした実をつけないまま元気のない青緑色に変色してしまいます．

9月になるとますます秋深しという感じで，森には黄色い色が目立ち始め，霧の発生する日が増えてきます．10月になるともう秋というよりは冬といった感じで，晴れた朝にはたいてい霜がおります．下旬になると霧の発生する日が目立って増えます．そして，これから12月にかけて晴れる日はまれとなり，とにかく曇りか霧か雨という毎日になります．

イギリスでは日本のような脊稜山脈がないため，暖かい海の上を冷たい空気が流れることによって発生した雲は山にせき止められることなく内陸に侵入（というより素通り）します．そして高気圧に覆われたときに，大気の下層の方が冷たいため非常に安定な層ができ，この雲が解消されずにそのまま残ります．これは Tumbling Cool と言われるらしく，大気下層でのみ対流が行われ，上層は乾燥快晴の状態となります．ラジ

* Landscapes in England.

** Atsushi Nomura, 気象庁数値予報課，現在ヨーロッパ中期予報センター（Europian Centre for Medium Range Weather Forecasts）滞在中．

© 1994　日本気象学会

オゾンデデータを調べたところ，この雲の高さは 700～800 m というところでした．1000 m を越える山へ登ればきっと見事な雲海が広がるはずです．が，いかんせん 1000 m を越える山は，スコットランドを別にするとウェールズの北の隅に数座があるだけで，残念ながらこれを身をもって確認することはできませんでした．こうなってしまうと，この安定層を破壊してくれる擾乱がやってくるのをじっと待つしかありません．待望の擾乱がやってくれば雨となり，これが通過したら吹き出しの雲が頭上を覆い，晴れることなく再び大気の下層に安定層ができ上がります．

イギリスは10月下旬まで夏時間を採っているため，標準時間に戻ったとき，日の暮れる時刻の早いのに愕然とします．11月はもう完全な冬で，気温が0度を上回らない日も出てきたりします．12月に入るとたまには晴れる日が現われ，こういう日には，太陽高度もちっとも上がらないので1日中朝日（そして夕日）が照っているという感じとなります．ターナーやコンスタブルの風景画は明暗のコントラストが深いものが多いのですが，ここで生活して見ると，そのような景色がごく普通の姿であることを認識しました．日本では太陽の沈み込む角度が大きいので，このような風景は日の入りと日の出のごく短い時間にしか観察できませんが，ここでは冬など１日中その景色です．

10月に霜が降り，11月に真冬日が出現したときは１月２月はどうなるのかと不安になりましたが，幸い気温の方は10月末からほとんど変わらなくなりました．ここでは冬にも大量の雨が降ります．今冬は特に雨が多かったようで各地で flood（洪水）の被害が出ました．イギリスのような平らな土地では，flood は日本の洪水とは少し様子が異なります．流されてしまうのではなく，じわじわ溢れるという感じです．まあどちらも水浸しには変わりがありません．特に冬ですので蒸発するということがなく，溢れた水たまり（というより湖）は，いつまでもそのまま残っています．湖面に浮かぶサッカーのゴールポストがイギリスのこの冬の風物誌のひとコマでした．また，日本では冬は雨というより雪ですが，イギリス（ロンドン周辺）では雪の降ることはまれです．この冬も雪景色となったのは11月下旬の１回と２月下旬の２回の合計３回だけでした．それもせいぜい 1 cm 程で，車のタイヤにチェーンをつけるほどには積もりません＝ここにはタイヤチェーンという概念がないのではないでしょうか．

クリスマスは日本で例えればまさにお正月です．クリスマス前は，みんななんとなく忙しそうで，道路も夕方はことのほか混雑します．また，いたるところでクリスマスパーティが開かれます．そして24日の夜を迎えます．この夜は国民みな教会でお祈りしているかというと，少なくとも私の家の周りに関しては，そのような感じはしませんでした．翌25日を迎えるとちょうど日本の元旦のような雰囲気で，たいへん静かになります．商店はすべて休みですし，バスはおろか鉄道まですべて止まってしまいます(25，26日)．テレビはクリスマス番組ばかりとなり，女王陛下のお言葉も放送されます．

イギリスの冬景色は，雪が少ないだけでなく，芝がちっとも色あせないで青青としているので，日本とは少々印象が異なります．またいつも雨ばかりで湿度が高いせいでしょうか，夜冷える割には霜柱を見かけません．さらにイギリス人の花に対する執着は相当なもので，真冬でも庭には何らかの花を咲かせています．寒桜の数は日本よりはるかに多いのではないでしょうか．

１月になると，とにかく曇っていた天気傾向が多少は回復し，晴れる日も増えてきます．そして２月になるともう春風が吹き始めます．冬枯れの林の下草の中ばかりでなく青青とした芝の中からクロッカスや水仙の芽が伸び始め，やがて花が咲き，早春の明るい雰囲気となります．ときどき寒くなり雪が降ったりしますが，相対的に暖かい日が増えてきます．そして3月の声を聞くと，信じられないことにもう桜が満開となってしまいます．

冒頭に述べた３月の風，４月のにわか雨が，というように３月は風の強い日が多いのは本当でした．しかし気温が低いので桜の花が咲き続け（多少の風には負けないようです），やがて若葉が芽ぶきはじめ，美しい季節の到来です．

ここに書いたことは滞在１年を通じての感想です．もう１年現地に滞在するのでこの印象がどのように変わるのか自分でも興味があります．

最後に，イギリスの天気を一言で言うと，くもり，です．